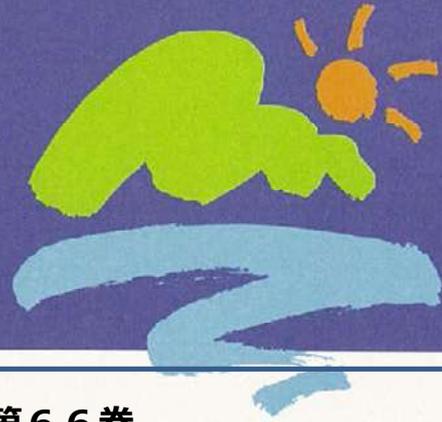


## 国土交通省 | 天竜川上流河川事務所



DATE: 令和4年10月17日

新刊は2年ぶり！  
余冊配布もあります！

「語りつぐ天竜川」 第66巻  
『天竜川総合学習館かわらんべ～地域と歩んだ20年～』 配布と発刊のお知らせ

## 1. 概要

「語りつぐ天竜川シリーズ」は、天竜川流域の災害・環境・歴史・文化など、様々な知見や経験を収録した書籍で、毎巻、図書館等に配布した余冊を**無料**で配布しています。(今回約250部) 配布は手渡しまたは郵送(送料のみ負担)にて行います。**必ず事前連絡いただくようお願いいたします**(連絡先: 天竜川上流河川事務所 調査課 TEL: 0265-81-6415 (直通))。詳細は資料1「配布案内」をご覧ください。

## 第66巻の概要

「天竜川総合学習館“かわらんべ”」。開館当時から人気で、20周年を迎えた今でも地域に愛され、活発な活動を継続しています。そんな「かわらんべ」の計画段階から今日までのあゆみを1冊にまとめました。各種記録・データのほかにも、歴代スタッフによる「思い出座談会」や、開館当時の利用者へのアンケートなどのよもやま話も収録しています。

## 2. 資料 資料1 配布案内

資料2 『天竜川総合学習館かわらんべ～地域と歩んだ20年～』(一部抜粋)

資料3 「語りつぐ天竜川シリーズ」既刊一覧

なお、事務所ホームページで、全文を読むことができます ↓または→

[https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/jimusyo/publication/pbl\\_tell/pbl\\_tell.html](https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/jimusyo/publication/pbl_tell/pbl_tell.html)



## 3. 解禁 指定なし

4. 同時配布 伊那記者クラブ  
駒ヶ根市記者クラブ  
飯田市記者クラブ



▲天竜川総合学習館 “かわらんべ”

5. 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所  
副所長 加藤 博 (かとう ひろし) TEL: 0265-81-6415  
調査課長 竹内 昭浩 (たけうち あきひろ) FAX: 0265-81-6420

「語りつぐ天竜川」第 6 6 巻 『天竜川総合学習館かわらんべ～地域と歩んだ 20 年～』  
配布案内

1. 手渡し配布

以下の場所で配布いたします。各受け取り希望場所までお問い合わせの上、①お名前②ご連絡先③受け取り希望日をお伝え下さい。

- ①天竜川上流河川事務所 調査課  
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南 7-10 TEL : 0265-81-6415
- ②天竜川総合学習館かわらんべ  
〒399-2431 長野県飯田市川路 7674 TEL : 0265-27-6115
- ③天竜川上流河川事務所 伊那出張所  
〒396-0026 長野県伊那市西町 5171-2 TEL : 0265-72-2734
- ④天竜川上流河川事務所 飯田河川出張所  
〒395-0821 長野県飯田市松尾新井 6753 TEL : 0265-22-3654
- ⑤天竜川上流河川事務所 小渋川砂防出張所  
〒399-3502 長野県下伊那郡大鹿村大河原 892 TEL : 0265-39-2301
- ⑥天竜川上流河川事務所 三峰川砂防出張所  
〒396-0211 長野県伊那市高遠町西高遠 631 TEL : 0265-94-2059
- ⑦天竜川上流河川事務所 飯島砂防出張所  
〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島 2527-3 TEL : 0265-86-2159
- ⑧天竜川上流河川事務所 遠山川砂防出張所  
〒399-1312 長野県飯田市南信濃八重河内 209-5 TEL : 0260-34-2376

2. 郵送による配布

郵送の場合、送料のみご負担いただきます（着払い）。

（ゆうメールにて送付します。本冊のみの場合 規格内・150g まで 201 円。）

以下までお問合せいただき、①お名前②ご住所（郵送先）③ご連絡先をお伝え下さい。

【問合せ先】

天竜川上流河川事務所 調査課  
〈調査課〉電話 : 0265-81-6415（課代表）

3. 注意事項

- ・在庫には限りがございますので、必ず事前にご連絡をお願いいたします。
- ・手渡し及び郵送に関わらず、申込みお一人様 1 冊までとし、2 冊以上は承っておりません。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 天竜川総合学習館かわらんべ 地域と歩んだ20年

## はじめに

2002（平成14）年7月7日（川の日）に天竜川総合学習館「かわらんべ」がオープンし、20年を経過しようとしています。学習館のオープンはこの地区の治水対策事業の完成とも重なり、治水対策事業によって創出された新たな堤内地の土地利用の進展とともに、地域の多くの人に支えられて活動してきました。

本書ではその成立から現在までを振り返り、多くの皆さんにも私たちの活動を知っていただきたいと思い編集しました。この編集の過程で、この地域での学習館の存在意義を改めて考え、私たちが今後の活動を見つめなおすきっかけともなりました。

記録やデータが多いので、最初は「6 思い出座談会」から読んでいただいたほうが良いかもしれません。

また、これまでの当館20年の活動を評価していただき、2021（令和3）年11月には「手づくり郷土賞<sup>1)</sup>」を受賞することができたことを報告します。



手づくり郷土賞 記念発表会（2021年12月18日 東京）

天竜川総合学習館 かわらんべ

1) 地域活動によって地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本とそれに関わった団体のご努力を表彰するもの（国土交通省 総合政策局）

## 目次

1	川路、龍江、竜丘地区という地域	1
2	天竜川総合学習館の成立	3
2.1	建設に至る経緯	3
2.2	建設の役割分担	5
2.3	展示の企画・検討	5
2.3.1	企画会議	5
2.3.2	展示の検討	6
2.4	愛称「かわらんべ」	6
2.5	オープニングセレモニー	6
2.6	館内設備	7
2.6.1	天竜川防災拠点施設諸室概要（開館当初）	7
2.6.2	館内フロアガイド	10
2.7	施設の位置づけ	10
3	運営体制	13
3.1	運営スタッフ	13
3.2	天竜川の水辺活動を支援する会	13
3.3	運営組織	14
3.3.1	運営委員会	15
3.3.2	企画会議	16
3.3.3	事務局会議	17
3.4	学習館運営費用	18
4	20年間の活動内容	19
4.1	データから見る活動	19
4.2	かわらんべ祭り	23
4.3	1周年記念事業	25
4.3.1	記念フォーラム	25
4.3.2	特別講座	27
4.3.3	「天竜川ものがたり」の募集	27
4.4	3周年記念事業	28
4.5	10周年記念事業	28
4.6	20周年記念事業（予定）	29
4.7	その他の活動	29

4.7.1	たねの会	29
4.7.2	飯伊釣り文化を伝承する会	29
4.7.3	水災害被災地支援の募金活動	30
5	広報活動	31
5.1	インターネット	31
5.2	広報かわらんべ	32
5.3	パンフレット	32
6	想い出座談会	35
7	利用者アンケートから	45
7.1	現在の利用者の声	45
7.2	講座卒業生の声	45
付録 A新型コロナウイルス感染症拡大防止対策		49
A.1	休館措置	49
A.2	中止イベント	49
A.3	その他対応	49
付録 B利用状況データ		51
付録 C関連資料		57
C.1	各種表彰	57
C.2	歴代運営スタッフ	57
C.3	年表	58

## 図目次

1.1	現在の川路・龍江・竜丘地区	1
1.2	昭和36年6月豪雨災害の川路・龍江・竜丘地区	1
2.1	オープニングイベント	7
2.2	館内フロアガイド	10
3.1	かわらんべ協力員	14
3.2	組織図	15
4.1	かわらんべ利用者推移	19
4.2	年間講座開催数	20
4.3	月別かわらんべ利用者（2002年7月～2022年3月）	21
4.4	年月別かわらんべ利用者（全体）	21
4.5	年月別かわらんべ講座参加者数	22

4.6	年月別リクエスト講座利用者	22
4.7	年月別団体見学者数	23
4.8	かわらんべ祭り 一般参加者数	23
4.9	かわらんべ祭り アンケートから	24
4.10	2014年のかわらんべ祭り（防災講座）	25
4.11	2015年のかわらんべ祭り（自然体験講座）	25
4.12	1周年記念フォーラム フライヤー	26
4.13	20周年記念バナーとロゴ	29
4.14	2021年7月豪雨災害への義援金募金	30
5.1	インターネットページ	31
5.2	広報かわらんべ（創刊号・100号・200号）	32
5.3	パンフレット（初版・第二版）	33
5.4	パンフレット（第三版・第四版）	33
6.1	座談会参加者	35
6.2	座談会の風景	35
6.3	2003年の水辺の楽校いいだ	38
6.4	2017年の水辺の楽校いいだ	38
6.5	水辺の楽校いいだのタコノアシ	39
6.6	水辺の楽校いいだのミクリ	39
6.7	リクエスト講座での駆除（2019年）	40
6.8	講座でのコサージュづくり（2020年11月29日）	42
7.1	かわらんべ講座で印象に残ったもの	45
C.1	歴代スタッフリスト	57

B.5	利用状況（H30～R03）	55
C.1	天竜川総合学習館 年表	58

## 表目次

2.1	天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川広報・展示室等企画検討委員	5
3.1	天竜川総合学習館 運営委員会 委員	16
3.2	天竜川総合学習館 企画会議 構成員	17
3.3	天竜川総合学習館 事務局会議	18
B.1	利用状況（H14～H17）	51
B.2	利用状況（H18～H21）	52
B.3	利用状況（H22～H25）	53
B.4	利用状況（H26～H29）	54

## 1 川路、龍江、竜丘地区という地域

天竜川総合学習館「かわらんべ」がある飯田市川路は、日本三大桑園として養蚕業に生きてきた「養蚕の里」といわれてきました。

一方で「水難の里」と自称せざるを得ないという川路・龍江・竜丘地区。上流に鷲流峡、下流に名勝天竜峡に挟まれた氾濫原の性格を持つ地区であり、水理的には急激な川幅の拡大による流速の低下、狭さく部による堰上げで水位が上昇しやすく、土砂が堆積しやすい特性があるといえ、天竜川の洪水と共生共存を求め続けてきた地域です。

河川を管理する建設省 天竜川上流工事事務所<sup>1)</sup>は昭和 36 年 6 月の大きな浸水被害を受けたことを踏まえ、当時の計画高水流量に耐えうる大規模堤防案を 1962 (昭和 37) 年に県、飯田市および地元の関係者に提示したのですが、飯田市および地元からは「大規模堤防では潰れ地が大きい」ということで反対を受けます。1966 (昭和 41) 年 3 月 19 日に建設省 中部地方建設局、長野県および中部電力株式会社の間で「天竜川上流川路・龍江地区治水対策に関する基本協定」が締結されました。これが「2千トン<sup>2)</sup>越流中堤防」と呼ばれる蛇かごで被覆した堤防整備計画です。

この協定による越流堤方式の対策後も 1983 (昭和 58) 年 9 月の台風 10 号でふたたび広い範囲の浸水が発生したことから、新しい土地利用を可能にするために堤防法線



図 1.1 現在の川路・龍江・竜丘地区



図 1.2 昭和 36 年 6 月豪雨災害の川路・龍江・竜丘地区

1) 現 国土交通省 天竜川上流河川事務所  
2) トンは  $m^3/s$  (毎秒〇立方メートル) の通称。

を山側に移動し、約 98ha の土地を計画高水位まで地盤をかき上げることによる治水対策を立案。1985 (昭和 60) 年 3 月 21 日、中部地方建設局、長野県、飯田市および中部電力株式会社の 4 者で「天竜川上流部の川路・龍江・竜丘地区の治水に関する対策についての基本協定」を締結しました。

家屋の一時移転、JR 飯田線の付け替え、広大な範囲の盛土、護岸の整備等を経て、2002 (平成 14) 年 3 月 19 日に盛土事業、同年 3 月 31 日に河川改修事業も完成し、同年 7 月 7 日に「天竜川総合学習館」および「水辺の楽校いいだ」がオープン。同年 9 月 7 日に天竜川上流川路・龍江・竜丘地区治水対策事業の完成記念式典が挙行されました。

### 水辺の楽校

人間と環境の関わりについての理解を深め、豊かな人間性を育てていくために、市民団体や河川管理者、教育関係者などが一体となって、地域の身近な水辺における環境学習や自然体験活動を推進するため、国土交通省、文部科学省、環境省の 3 省が連携して、『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』に取り組んでいます。

この取組に対し国土交通省では、子どもが安全に水辺に近づけ、環境学習や地域交流などの活動を推進するために必要な、親水護岸などのハード整備を「水辺の楽校」プロジェクトとして実施し支援するものです。(国土交通省 Web ページより)

### 水辺の楽校いいだ

川路・龍江・竜丘地区治水対策事業で生まれた約 26ha の新堤外地の一部が各地区ごとに「水辺の楽校」のゾーンとして平成 13 年 1 月に登録されました。この水辺環境の整備をすることにより、親子のふれあいの場、水遊びの場を提供するだけでなく、天竜峡エコーバレープロジェクトによる新堤外地の有効な利活用と、天竜川総合学習館との一体的な運営により、子どもたちの自然体験や、学校での総合的な学習時間の成果を高められることを望んでいます。(「天竜川水辺の楽校いいだ」パンフレットより)

川路 自然体験ゾーン

龍江 水に親しむ公園ゾーン

竜丘 水に親しむ公園ゾーン

## 6 想い出座談会

学習館の特徴でもある講座を核とした活動ですが、講座を企画・運営してきた歴代の教育担当者に集まっていただき、これまでのいろいろなご苦労を振り返っていただくこととしました。とても興味深いお話を聞くことができました<sup>1)</sup>。

**日時** 2021（令和3）年12月23日（木）9:30～11:15

**場所** 天竜川総合学習館かわらんべ 総合学習室

### 参加者

- ・初代教育担当者 今村 理則<sup>2)</sup>氏
- ・二代目教育担当者 堤 久氏
- ・現教育担当者 中村 貴俊<sup>2)</sup>氏
- ・天竜川総合学習館 寺澤 保義<sup>2)</sup>館長
- ・天竜川総合学習館 久保田 憲昭<sup>2)</sup>広報員
- ・天竜川総合学習館 加藤 富貴子<sup>2)</sup>事務員
- ・記録：天竜川上流河川事務所



今村 理則 堤 久 中村 貴俊 寺澤 保義 久保田 憲昭 加藤 富貴子

図 6.1 座談会参加者



図 6.2 座談会の風景

1) 座談会は、感染症拡大防止の対策を十分行って実施しました  
2) 2022（令和4）年3月16日に不慮の事故でお亡くなりになりました。

## 講座を中心とした活動

**加藤** 学習館の建設計画当時、どのようないきさつがあったのでしょうか。

**今村** 当時の建設省は、治水資料館として要望していた川路水害予防組合に相談したのではないかな。自分は組合の役員でいたこともあり「学校の先生だったし、お前が中心になってやってみては」的に声がかかった。まずは、似たような施設として東京の荒川知水資料館など2か所ばかり見に行った。行って見て、このような施設の運営方法は自分の思っているものとは違ったんだ。展示は素晴らしいんだけど、人がいないんだな。もっと人のたくさん集う施設がいいと思い、それで講座を中心とした施設活用を計画した。

それから、協力員体制。ボランティアで講座の運営補助として来ていただき、いずれは講師となっていただけのようにと地域の人たちにいろいろ声をかけた。この講座中心の活動とその運営に協力員を組織することは、今の活動にも生きているのだと思う。

**加藤** 私も別の機会に東京都北区にある荒川知水資料館「amoa」に行きましたよ。「せっかくなら、なんでも川に関連付けたテーマとして講座をやるといい」とアドバイスを受けました。

それから、滋賀県立琵琶湖博物館に今村先生を含めて協力員として声をかけた何人かとマイクロバスで行って、そこでのサポートメンバーというしくみは参考になりました<sup>3)</sup>。

**寺澤** 「水」「川」というテーマにこだわっての講座は、かわらんべの特徴を物語っています。これから先もこのコンセプトは大切にしていきたいと思います。

**今村** そして、最初は研究ということも重視したいと思っていた。餅つきといっしょに研究発表のようなこともやったなあ。この研究活動がきっかけで、学校を卒業してから研究者の道へと進んでいった子どもたちもいます。その代わり、幼い子どもたちには難しかったかもしれない。

**堤** 自分の反省として、自然科学分野はがんばったけれど防災分野は手薄だった。今は防災にも力を入れていますね。

**加藤** 防災といえば大地震への備えというのが当時の世間一般の考えだった。起震車で地震体験みたいなものをかわらんべ祭りに取り入れていって、徐々に水害についても取り組んでいった。今では月1回弱くらいに防災関係講座を企画していくようになっています。特に今年は伊那谷の大水害である「三六災害」から60年なので、展示も充実させていますよ。

**中村** 花崗岩が風化すると崩れやすくなるとか、水害での避難生活体験とかやってい

3) 平成17年11月26日、県立琵琶湖博物館と土岐川観察館へ視察。

## 「語りつぐ天竜川」 目録

- |                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 伊那谷の気象                   | 米山 啓一 著        |
| 2. 天竜川上流域の立地と災害             | 北澤 秋司 著        |
| 3. 天竜川に於ける河川計画の歩み           | 鈴木 徳行 著        |
| 4. 総合治水の思想                  | 上條 宏之 著        |
| 5. 総合治水と森林と                 | 中野 秀章 著        |
| 6. 伊久間地先に於ける天竜川の変遷          | 松澤 武 著         |
| 7. 天竜峡で見た天竜川水位の変遷           | 今村 真直 著        |
| 8. 村境は不思議だ                  | 平沢 清人 著        |
| 9. 諏訪湖の富栄養化と生物群集の変遷         | 倉沢 秀夫 著        |
| 10. 諏訪湖の御神渡り                | 米山 啓一 著        |
| 11. 理兵衛堤防                   | 下平 元護 著        |
| 12. 近世 天竜川の治水 — 伊那郡松島村 —    | 市川 脩三 著        |
| 13. 川筋の変遷 — 天竜川と三峰川の場合 —    | 唐沢 和雄 著        |
| 14. 伊那谷山岳部の降雨特性             | 宮崎 敏孝 著        |
| 15. 天竜川の橋                   | 日下部 新一 著       |
| 16. 伊東伝兵衛と伝兵衛五井             | 北原 優美 編        |
| 17. 天竜川の魚や虫たち               | 橋爪 寿門 著        |
| 18. 天竜川のホタル                 | 勝野 重美 著        |
| 19. 天竜川流域の村々                | 松澤 武 著         |
| 20. 小渋川水系に生きる — 人と水と土と木と —  | 中村 寿人 著        |
| 21. ものがたり 理兵衛堤防             | 森岡 忠一 著        |
| 22. 量地指南に見る 江戸時代中期の測量術      | 吉澤 孝和 著        |
| 23. 土木技術と生物工学 — 生きものを扱う技術 — | 亀山 章 著         |
| 24. 戦国時代の天竜川                | 笹本 正治 著        |
| 25. 天竜川の水運                  | 日下部 新一 著       |
| 26. 惣兵衛川除                   | 市村 咸人 著        |
| 27. 紙芝居 開墾堤防 — 下伊那郡豊丘村伴野 —  | 竹村 浪の人 著       |
| 28. 昭和 36 年伊那谷大水害の気象        | 奥田 穰 著         |
| 29. 天竜川の淵伝説 — 『熊谷家伝記』を中心に — | 笹本 正治 著        |
| 30. 天竜川の源流地帯                | 赤羽 篤 著         |
| 31. 東天竜                     | 三浦 孝美、仁科 英明 共著 |
| 32. 天竜河原の開発と石川除             | 塩沢 仁治 著        |
| 33. 伊那谷は生きている               | 松島 信幸 著        |
| 34. 天竜川の災害伝説                | 笹本 正治 著        |

### 資料3

35. 天竜川の災害年表 笹本 正治 編
36. 天竜川水運と樽木 村瀬 典章 著
37. 水辺の環境を守る 桜井 善雄 著
38. 諏訪湖— 氾濫の社会史— 北原 優美 著
39. 河川工作物と魚類の生活 中村 一雄 著
40. 天竜川上流域の過疎問題 山口 通之 著
41. 資料が語る 天竜川大久保番所 松村 義也 著
42. 天竜川上流 河辺の植物と植生 関岡 裕明 著
43. 水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水 藤森 明 著
44. 横川山巡覧記 — 『辰野町資料第 87 号』より — 辰野町教育委員会 編、赤羽 篤 校訂
45. 天龍川の鳥たち 福与 佐智子 著
46. 遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造 浮葉 正親 著
47. 田切ものがたり 赤羽 篤 著
48. カエルと暮して 山内 祥子 著
49. 伊那の冬の風物詩 ざざ虫 牧田 豊 著
50. みんなの三峰川を次世代に 三峰川みらい会議事務局 編
51. 三峰川ものがたり三峰川みらい会議 北原 優美 著
52. 天竜川水系の水質 — 「泳げる諏訪湖・水遊びのできる天竜川」を目指して — 沖野 外輝夫 著
53. 天竜川の帰化植物たち 木下 進 著
54. 中央構造線読み方案内 — 諏訪から大鹿村地蔵峠まで — 河本 和朗 著
55. ふるさとの山 駒ヶ岳ものがたり 赤羽 篤 著
56. 近世信州伊那郡大河原村の自然環境と人間 松原 輝男 著
57. 地名を通して見る 天竜川と人々の暮らし 松崎 岩夫 著
58. 伊那谷の土砂動態 九津見 生哲 著
59. 天竜川と生きて 下平 長治 著
60. 明日に伝える三六災害 — 川路・龍江の水害体験談と子ども達の取り組み — 川路・龍江の方々
61. 天竜川の川の碑 竹入 弘元 著
62. 「東日本大震災」の対応について ～初動対応～復旧・復興に向けて～ 熊谷 順子 著
63. 三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠 北原 富美子 著
64. 天竜川・三峰川河畔でのミヤマシジミ保全 岡村 裕 著
65. 三六災害の記録『濁流の子』の編纂を振り返って 碓田 栄一 著
66. 天竜川総合学習館かわらんべ～地域と歩んだ20年～ 天竜川総合学習館 編